

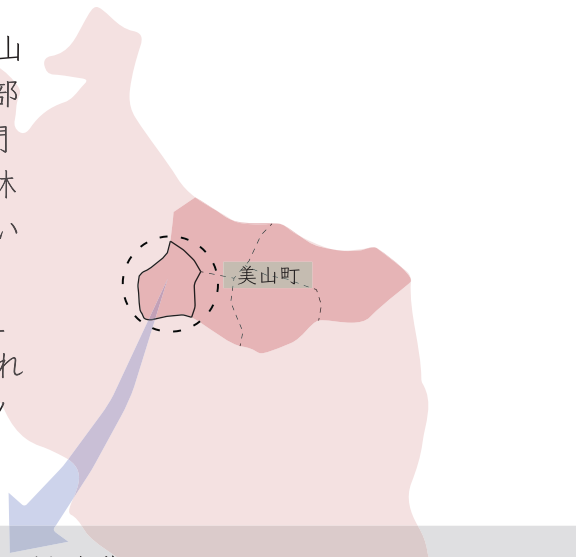


report on the activity  
in 2017.4 - 2018.3



## 大野区とは？

美山木匠塾は京都府南丹市にある美山町大野区で活動しています。美山は大部分が豊かな森林で占められている山間地域であり、古くは北山丸太などの農林業が盛んでした。大野にも、多くの美しい桜や紅葉が残されています。また、国宝陶芸作家の野々村仁清生誕の地で、生家は現在も地元の人たちによって残されています。近年では自転車やバイクのツーリングコースとしても人気があります。



### 野々村仁清生家

江戸時代初期に活躍した日本の名陶工、京焼きの祖と言われる仁清こと、野々村清右衛門の生家と伝えられる住居が大野地区に残されています。



### 桜と紅葉

四季折々の草花に囲まれた大野。なかでも春と夏にはそれぞれ桜祭りともみじ祭りが催されます。地域の人々に親しまれ、全国からも観光客が多数訪れます。



### サイクリング

美山は自転車のまちとしてよく知られています。信号がなくキレイな道を求めて、近畿をはじめとした全国のサイクリストたちが美山を訪れます。



### 木材

大野ではかつて北山丸太をはじめとする農林業が盛んでした。今でも田園と由良川、山々に囲まれた豊かな自然の下で生活が営まれています。



## 目次

### 摂南大学 活動報告

- ・ 一年の活動を通して
- ・ コンペ関係
- ・ 制作物「add-bench」

### 京都府立大学 活動報告

- ・ 一年の活動を通して
- ・ コンペ関係
- ・ 制作物「あつまるま」

### 2017年度の活動報告

- ・ リーフレット
- ・ 体育大会・感謝祭
- ・ IKEBUKURO LIVING LOOP
- ・ 紅葉まつり
- ・ ミニモク・制作合宿
- ・ 春合宿・ホームステイ

### 参加学生による感想文

2017年度  
美山木匠塾の動向とこれから

P4

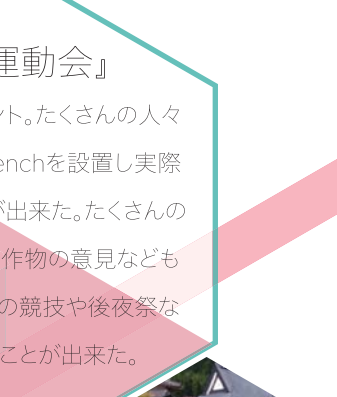
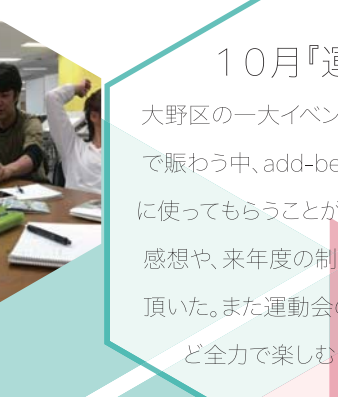
P8

P12

P18

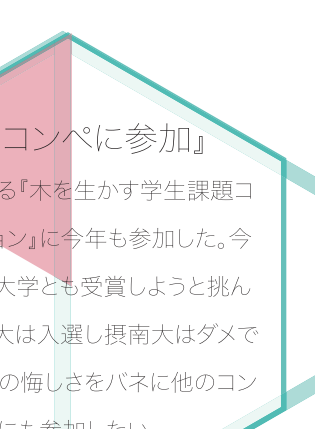
P25

# 活動報告



## 5月『ミニモク』

5月4日～5日にかけて、リーフレットの為の現地調査の合宿を行った。班に別れて調査を行うだけでなく、前回のホームステイでお世話になった里親さんの手伝いをしたり、リーフレットの意見をもらったりと、地域との交流も深めることができた。



## 11月『MUJI池袋』

OPEN MUJI では、夏に制作したadd bench を出品した。絵を描いてもらって様々な場所で軌跡を残していくadd bench、大野だけでなく池袋の子どもたちにも遊んでもらうことができた。また、大野をより多くの方々に知ってもらうために、リーフレットも配った。参加した学生は、いろんな世代の人とお話できる濃い2日間だった。

## 『もみじまつり』

制作物を大野ダム公園に設置し、紅葉祭りに参加した。京都府大の「あつまるま」にてギター演奏会を行ったり、滋賀県立大学から「茶レン茶」(ちゃれんじゃー)の方々が参加し、お茶を出しながら紅葉祭りの参加者と交流した。参加者にはリーフレットの配布も行い多くの人に見てもらうことが出来た。

## 9月『制作合宿』

6月頃から大学でのミーティングで作るものを話し合いadd-benchという木製遊具を制作した。今年は例年と違って現地で制作合宿という形をとる事により地域の人たちと共に創り上げるという事を体感することが出来た。

## 10月『運動会』

大野区の一大会。たくさんの方々で賑わう中、add-benchを設置し実際に使ってもらうことが出来た。たくさんの方の感想や、来年度の制作物の意見なども頂いた。また運動会の競技や後夜祭など全力で楽しむことが出来た。

## 1月『コンペに参加』

毎年行われる『木を生かす学生課題コンペティション』に今年も参加した。今年こそは両大学とも受賞しようと挑んだが京都府大は入選し摂南大はダメでした(泣)。この悔しさをバネに他のコンペにも参加したい。

## 『商品化!?!』

コンペは残念だったが、11月の池袋でadd-benchを欲しいと言われている方がおり商品化する事になった。これを機に様々な場所で使われて欲しい。





6つのさんかく いろんな組み方遊び方  
 1つでイス 2つでおうち 6つでトンネル  
 全部つなげると長いベンチ 少し替えるとヘビや太陽  
 重ねてお城 ひっくり返してお絵かき  
 トラックに載せて遠くへ運んで 描いた絵が街に届いて

**街と街が add-bench でつながる**  
 組み立てて くぐって のぼって のぞいて  
 重ねて 描いて 遊びかがる遊具  
 大人は座ってそれを見守りながら

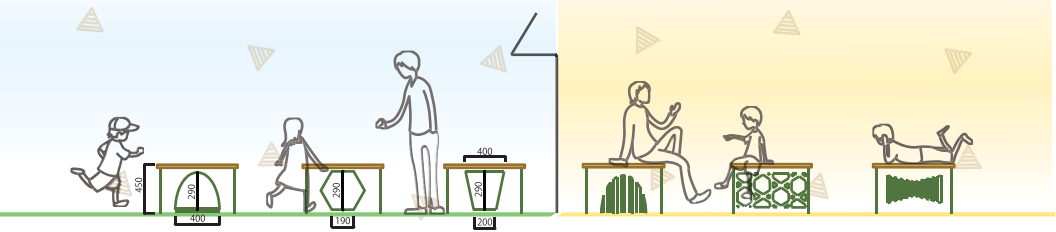
**大人と子どもが add-bench でつながる**  
 いろんな場所に運んで使って  
 たくさんつながりを加えて足して

**人と世界が add-bench でつながる**

## 制作物「add-bench」

add-benchは 1 辺800mm、高さ450mmの正三角柱の形状をしたものである。ベンチとして街中に置かれたり、公園に置いて側面の穴を潜ってトンネルやアスレチックのように遊具として使われたり、その場その場で用途は様々である。天板の裏には黒板塗料を塗っており、そこで絵を書くこともできる。組み方・立て方・繋げ方が自由に変えられることによって様々なニーズに対応することができる。

1 1月の「OPEN MUJI 2017 in ikebukuro Living Loop」に参加した際には、キャットタワーとしてという意見を頂き、この遊具が様々な用途、・場面に対応し得るということを感じた。またその後、非認可の保育園の遊具として購入していくことが決まり、徳島の家具メーカーと共同で商品化した。



## 様々な組み方・立て方・つなげ方

ただの積敷も特別なベンチに

小さな冒険の始まり!

ばあ! ひっくりした?

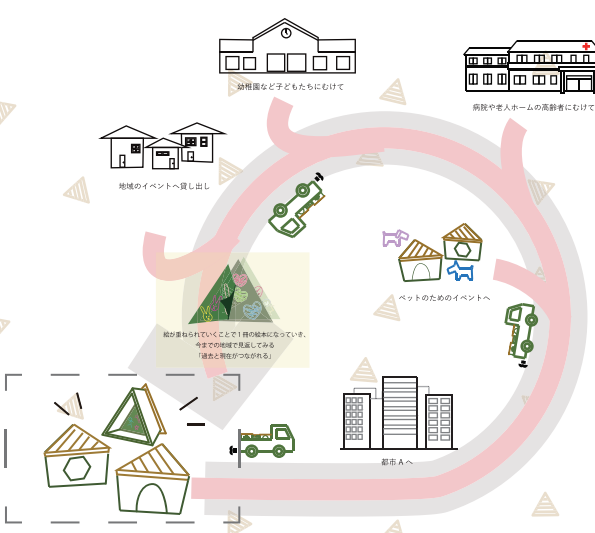
都会の街中でお絵かき...

ここはくぐって、ここはまたいで、つー!

どうしようかな??

つながるイスで、みんなつながる。

## add-benchが生み出すサイクル



add-bench1つ1つがトラックに詰めるほどコンパクトであるため施設やどこか遠い場所への運搬が可能。地元で描いたイラストが別の地域に運ばれその現地の人々にイラストを見てもらい、またその人たちが描いたイラストが別地域に運ばれる。そしてスタート地点の地域に戻ってきたときに今まで書かれてきたものをみんなで見返す。こうしたサイクルの中で人と人、地域と地域、人と地域のさまざまなつながりが創られる。つながりを持つことで交流をより綿密なものにし、地域コミュニティが希薄化している現代において大きく寄与する。また保育園や老人ホームなどの施設に運搬すると違った年齢層の人たちとの交流も生まれる。

add-benchをつなげればつなげるほど人と人の「和」が大きくなり、add-benchを運ばば運ぶほど地域と地域の「輪」が大きくなる。この2つの「環」を add-bench は作り出す。

**制作会議 (4月~)**

定期的なミーティングを行い、自分たちで意見を出し合う

**現地プレゼン (7月)**

現地での意見を聞く

**制作合宿 (9月)**

慣れない道具を使って一から自分たちで作る!

**OPEN MUJI 池袋 (1 1月)**

ストリートファニチャーとして東京のイベントに参加した

**制作発表・感謝祭 (1 10月)**

みなさん大変喜んでくれました!

## 東京での活用の実績

東京池袋で行われたイベントに出展し、**実際に**都市の人々に向けて発信した。都心部の子供たちにとって街中でお絵かきができるというのは新鮮だったようで、たくさんの親子連れでにぎわった。

## さらなる活用の模索

東京でのイベントでの展示の際にペットに対しても応用できると感じた。実際にキャットタワーとして利用したいという要望があり、**現在その商談を進めている。**

# 年間活動報告

京都府立大学チーム

4

現地調査



現地調査



学生ミーティング

## 企画から製作まで

美山木匠塾では、地域に役立つ木造構築物の製作を目的としており、企画から製作まで一貫して学生が行う。

学生ミーティング

現地プレゼン



現地プレゼン



現地製作

現地製作

10

大野区感謝祭

## 大野区感謝祭

製作した木造構築物を、地域の感謝祭で引き渡した。製作した「あつまるま」に対して地域の方から、ぜひとも使いたいという声をいただいた。



地域の方の利用



あつまるまの説明

LINKtopos



リーフレットで大野をアピール



ポスターセッション

## LINKtopos

全国の公立大学生が集まって、地域に対する取り組みを語り合い、学びを深めあった。府大の教職員のSDミーティングにも参加し、活動報告を行った。

SDミーティング

もみじ祭り



互いの活動について語り合う

## もみじ祭り

LINKtoposで知り合った滋賀県立大学の学生と共同して、大野ダムで行われたもみじ祭りを盛り上げた。「あつまるま」でたくさんの方の「集まる間」がうまれた。



家族団らんの食事の間

12

1

木の課題  
コンペ準備

コンペ提出

「地球環境の殿堂」ポスターセッション  
環境保全に取り組みをしている一般の方々に、美山木匠塾の活動を広めることが出来た。自分たちの環境に対する意識も変わる良い機会だった。



模型で説明



ポスターで活動をアピール

2

「地球環境の殿堂」でのポスターセッション

3

春合宿  
ホームステイ

コンペ表彰式



地域の方のあつまるまの利用



まき割り体験

## 春合宿・ホームステイ

今年度の春合宿はリーフレットの3つの道をテーマにした絵本の制作が目的だった。ホームステイをする中で、大野の方々が昔していた遊びや過去に行われていたイベントなど、絵本の題材になるお話をたくさんお聞きすることができた。また、実際に大野での生活を体験することで、地域の特色を知り、来年度の製作のヒントを得ることができた。



地域の方へ活動報告



大野の森を教わる

## コンペ表彰式

府大の今年度の製作物「あつまるま」とそれを使った活動が評価され、第4回木を活かす学生課題コンペにおいて「木を活かす学生活動大賞」を受賞した。懇親会では、お互いの活動について語り合う中で、美山木匠塾の魅力や今後の展望などを考えることが出来た。



シート①



シート②



賞状授与



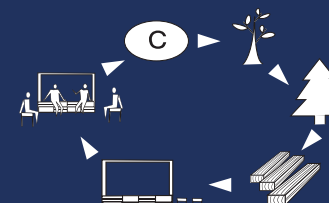
リーフレットをアピール

## まとめ

2017年度は美山木匠塾の活動の幅が広がり、様々な分野の視点を持つようになった年だった。来年度はさらにレベルの高い活動を目指していきたい。

## 炭素循環・木の炭素固定など

地域間伐材の有効活用を目指す私たちの活動は、炭素循環における一端を担っている。光合成により炭素を吸収して育つ木は、育ち切ると炭素の排出量が上回る。そのような木を間伐し木材を長期利用することで、森がまた育ち、炭素の排出も抑えられる。



# あつまるま

2017年度京都府立大学チーム

「あつまるま」とは、移動式茶室である。ここでいう茶室とは単なるお茶を愉しむ場というわけではなく人が集まり、会話を楽しみ、人と人につながりが生まれる場のことである。「あつまるま」は、その汎用性から、その場に合った空間を生み出すことができる。そして「あつまるま」は「あつまる間」を形成しその場を彩り、人から人へ、そして大野から地域へ、都市へと広がっていく。



▲あつまるまは8個のイス、1個のハコからなり、水平、垂直方向への接続が可能である。



▲ 二畳空間としての利用

45°にカットされた接続部分によって、水平方向への接続が可能である。



▲ 食事の間として使用

あつまるまのイスは、座面を汚さずに縦接続が可能である。

## ○製作物の決定まで

あつまるまの計画が始まったのは、2017年3月、ホームステイ時に行った第1回目の現地ヒアリングである。ホームステイという形で大野の方と関わらせていただくことで、大野の実情を知ることができ、大野という地域に何が 필요한のか、大野の方々が必要としているものが何なのかを、より深く考えることにつながった。「大人も子供も使えるものが欲しい」という声から「休憩所」が初期案として挙がった。後に陶芸家、野々村仁清を称える会の方からもみじ祭りで使えるお茶をふるまう場があればうれしいといった意見をいただき、人々が集まり団らんする場も兼ねた「茶室」をつくる流れになっていった。

## 01-現地調査

大野に訪れた際に、製作物についての聞き込み調査を行った。アイデアや方向性を決定していく上で、大変重要になった。



## 02-ミーティング

模型やシートを使いながら週一回の学生ミーティングを行った。修正点や課題点を議論しながら、少しずつ形にしていった。



## 03-現地プレゼン

製作物の模型や模型写真を使って、プレゼンを行った。いただいた意見を持ち帰り、学生間で共有し、ブラッシュアップを行った。



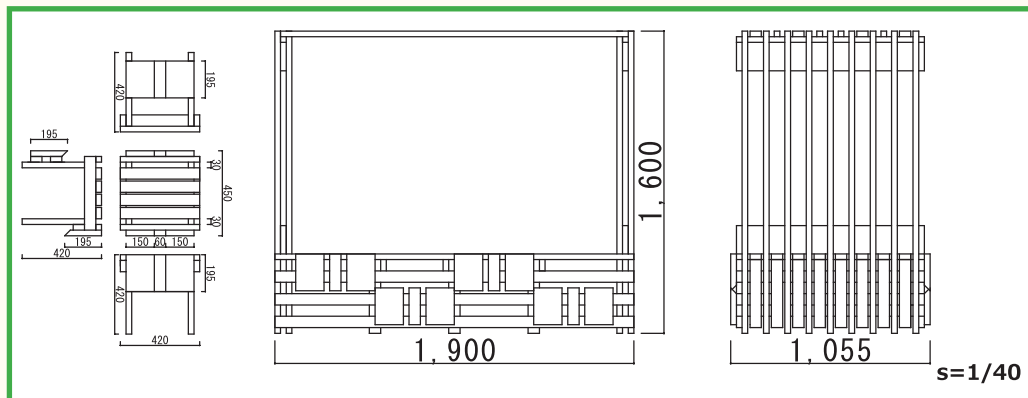
## ○大野から全国へ

あつまるまは、機動性に優れているため、軽トラック1台で全国各地で「あつまる間」を展開することができる。大野や都市で人々と美山木匠塾メンバーが形成したコミュニティの輪の広がりとともに、あつまるまの魅力に磨きがかかっていく。



## 04-設計

実際に製作に移すために設計を行った。パーツを実際にどのように接続するか、どのような工程で組み立てていくのかを考えながら進めていった。



# リーフレット製作

大野区を訪れる人や、大野を知らない人に向けたリーフレットを地域の人と共に作りました。



地域の人の手ほだきのもと農業体験



チームに別れて現地を調査



飯後の残行。地域の人と完成品についての話し合い。



LINK topos (公立大学学生ネットワーク)



現地美山大野での「もみじ祭り」



制作のためのヒアリング調査



ホームステイは地域の人たちと絆が。



何度も何度も議論を重ねました



完成おひろめ



Open MUJI (IKEBUKURO living loop)

## リーフレット完成版



### 一緒に作った人たち

地域の人たちに直接お話を伺って似絵で登場していただきました。



### 学生ボイス

学生が地域の生活体験を通じて感じた大野の魅力を紹介しています。



### 地域の人にも

旅行者だけでなく、地域の人にもリーフレットを通して大野の魅力を見つけてもらえます。学生が主体となって地域の人と作り上げたリーフレットを様々な人に寄与するようです。

### さんぽみち

「大野の魅力」スポットを繋ぐさんぽコースを所要時間ごとに3つ設定しました。

### 持ち運びのしやすさ

A3 八つ折りで手のひらサイズに作りました。高齢者の方のためにA2版も作成しています。



# 体育大会・感謝祭

H29.10.08

この体育大会・感謝祭では、大野の皆さんと一緒に体を動かし、食事をして楽しい時間を過ごしました。我々木匠塾メンバーは障害物競走とリレーに参加し、より大野の皆さんとの距離が縮まったのではないかと思います。また今年度の製作物、京都府立大学の「あつまるま」と摂南大学の「add-bench」をここで初お披露目し、実際に皆さんに使っていただきました。直接、ご意見や感想をいただける貴重な時間でした。ちびっ子からおじいちゃんおばあちゃんまで色んな年齢の方が一堂に会し、活気あふれる体育大会・感謝祭となりました。



「add-bench」で遊ぶ子どもたち



「あつまるま」を紹介中



ボールをバウンドさせて籠でキャッチ



せつせと缶を積む



当たりを引けばパン食い競争



ハズレを引けば顔面あめ食い競争



最後はみんなで楽しく宴の時間



# IKEBUKURO LIVING LOOP

H29.11.18~19

「IKEBUKURO LIVING LOOP (OPEN MUJI池袋)」に美山木匠塾から「add-bench」を出展した。東京の子供たちにとって「街の中で遊んだりお絵かきする」という体験は新鮮だったようで、たくさんの親子連れでブースが賑わっていた。また、参加した私たちもこのイベントを通じ子供から大人までたくさんの方々とお話することができ、有意義な時間を過ごすことが出来た。



展示スペースではリーフレットも配布



みんなで仲良く黒板におえかき

このような美山町・大野地区だけの活用に留まらず、他地域へと制作した遊具を運び、美山木匠塾の活動を広めることは美山町・大野地区のことを都市部へアピールすることが出来、地域発展の手助けをするいい機会となる。

今後もこのような他地域で開催されるイベントに積極的に参加し、全国に美山町・大野地区のいいところが知られていけば少しでも地域発展に貢献できると思う。

←スギダラケ倶楽部の皆さんの前で関西支部の紹介



## 2日間の様子



1日中賑わうイベントの様子

#かわいい木材製品がたくさん!



お絵かきしてくれた黒板

#みんな絵がとても上手!!



木で作られたカツラで記念撮影

#インスタ映え!?



いろんな組み方で展示

#ほかにはどんな遊び方があるのかな?



チョークでおえかき

#なにを描こうかなあ



くぐりぬけたりのぼったり..

#遊び方たくさん、たのしいなあ

# もみじ祭

毎年、大野ダムにて開催されている、お祭り。地域の方の協力を得て、製作物を活用した。

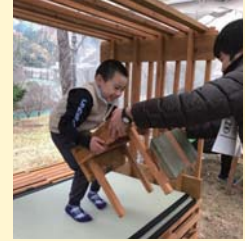
## 1日目

11/18、大野のダムにてもみじ祭りが開催された。雨の中、スタートしたもみじ祭りであったが、そのおかげもあり、「あつまるま」の新たな活用方法を発見することができた。その中で、「あつまるま」を中心として、地域の方々、学生、また観光客の方々、それぞれにつながりが生まれた。ライブステージや、食事の間、団欒スペースなどといったように、まさに「あつまるま」が「あつまる間」を形成した。

リーフレットの配布も、行き様々な方々から意見をいただくこともできた。



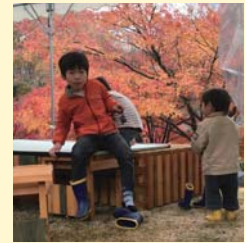
▲もみじと「あつまるま」



▲5歳の子でも軽々と



▲家族で寄り添って食事



▲畳の上で遊ぶ子供たち



## 2日目

天候が1日目よりはやや回復し、「のぼりたい・すべりたい」、「ヤタイ『棧』」、「くむくむ」といった、歴代の製作物を活用できた。

また、「あつまるま」や他の製作物を、LINK toposがきっかけとなり知り合った、滋賀県立大学の「政所茶レン茶”一」の方々にお茶をふるまう場として使用していただいた。美山木匠塾と他大学の団体に連携が生まれ、非常に有意義な取り組みとなった。今後もこのような繋がりを、地域や私たちの企画したイベントを通じて、広げていきたい。

1日目同様、お茶をふるまうと共に、リーフレットの配布を行った。



▲ライブステージとしての利用



▲リーフレットの配布



▲木匠塾と茶レン茶”一の交流



▲お茶をいただきながらゆったり



## ミニモク リーフレット制作に向けた1泊2日の合宿。

リーフレット作成や大野の方より親睦を深めるため、合宿を行った。実際に歩いてみることでルートの確認を行ったり新たな魅力的なポイントについて聞き込みをしたり、農作業を手伝った。



## 製作合宿

9/5～9/10にかけて約1週間、公民館と求裕館（旧小学校）をお借りして製作合宿を行った。昨年度までは府立大学にて製作を行っていたが、今回は、現地で製作を行うことで、実際に製作物が利用される地域の雰囲気を感じながら、また地域の方と交流しながら作業ができた。



## ○製作の様子

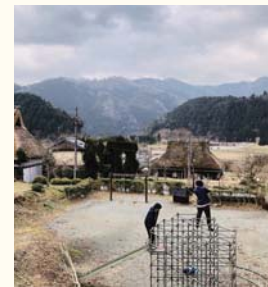
仕分け、印付け、切断、けがき、塗装、組み立ての順に、作業を進めた。予定通りに進まないこともあったが、最終日に完成させることができた。



## 春合宿・ホームステイ

### 1日目

美山・かやぶきの里をメインに、資料館の見学や、散策を行った。同じ「美山」という地域ではあるが、それぞれに色があり、魅力にも違いがあるということを学んだ。夜には受賞式に向けた発表練習や、今後の美山木匠塾の活動について、語り合った。



### 2日目

朝に最終的なヒアリング事項の確認を行い、昼の対面式を経て、ホームステイが開始した。お手伝いをさせていただいた後、今回の絵本プロジェクトに向けたヒアリングや、木匠塾に対する意見を伺った。地域の方々との交流を深める貴重な機会となった。



### 3日目

各ホームステイ先で、いただいた意見をワークショップ形式で3つのコースと、全体の計4枚のシートにまとめていった。その後、3つの班に分かれ、それぞれのコースについての、仮原案を製作し、それらをより深く議論しまとめていった。また今後の絵本プロジェクトの方向性についても、ミーティングを行った。



01なつかしのみち：タイムスリップ

02れきしのみち：道案内

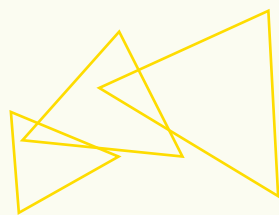
03だいしぜんのみち：帰省/カメラ

### 4日目

3日目に作成したストーリーを、交流会での発表に向けて、図化する作業を行った。京都新聞社や、南丹TVの方々に取材をしていただき、今回のホームステイや今年度の実績をそれぞれ外部に紹介していただくことにつながった。最後に学生一人一人が感謝の言葉を送り、春合宿は幕を閉じた。



# 今年度を振り返って



## 摂南大学

### 須山 慎也 代表幹事

変化のある1年だった。春のホームステイから始まり、リーフレット製作、OPEN mujiへの参加、製作物の商品化など…昨年度から続いている活動も含めて、様々な変化を体感できた1年だったと思う。昨年度の運動会から始まったリーフレット製作は、現地でのヒアリングや合宿を行い学生と大野の人達が1年一緒に作り、結果良いものが出来た。翻訳された3ヶ国版やのぼり、地域お越し協力隊のみなさんによる立て札の製作など、リーフレット活動はこれからさらに続いていくと感じている。今年度の製作物は府大は木の課題コンペで学生活動大賞を受賞、摂南大もadd-benchをOPEN mujiに出展商品化のお話も頂けるなど、よい結果が残せたと思う。大野地区の方々や、スギダラのみなさんなど支えてくれた人達、そして先生方と木匠塾メンバー達お礼を言いたい。本当にありがとうございました。

### 北野 大祐

今年度は自分たちでやる、というよりは1,2年生のサポートに回る一年間だった。製作については案出しの段階以外はあまり関わることができなかったが、無事に製作完了、さらにはMUJIに展示し、それが売られるようになるまでに飛躍してくれてとても喜ばしいことだし、頑張ってくれたと思う。コンペでは、最後まで粘り強くシートを作成し、1,2年生の力で作り上げられたことはとてもよかったと思う私たちの学年は主にリーフレットの作成に取り組んだ。その中でも特に現地合宿が印象に残っている。自分たちで大野の人たちには当たり前になっている風景を、魅力を伝えるにはどうしたらいいかを考え、探し、それを伝えること、その難しさを改めて実感した。特に伝えるという場面では、他者の受け取り方を考えながら伝えることはとても難しいと感じた。それは自分の今後の課題として、自分の強みに変えていきたい。今年もたくさん学びがあって良い一年間になった。

### 中野 碧 リーフレット統括

今年度は、3月のホームステイ合宿に始まり、10月の現地お披露目会、そして3ヶ国語翻訳と1年間リーフレット統括リーダーとして関わりました。この活動で、大野の人に大変お世話になりました。現地調査の際、いつも暖かく私たちを迎えてくれ、優しくお話をしていただきました。学生間で議論をする上で、みんなが段々大野について詳しくなっていく、地図を見なくてもこの話をしているかわかるような状況になっていくのが、すごく楽しく、大野に拠点を置き、美山木匠塾としていい経験になりました。OPEN MUJIなどの関西以外の場所でも、リーフレットを配り、製作物も様々な世代に見ていただくことで、これからの課題や貴重な評価を頂くことができました。このような充実感を得ることができたのは、大野の皆さん、京都府立大学と摂南大学の学生が協力した活動ができたからだと思います。たくさんの人に感謝しながら、来年度もより充実した活動をしていきたいです。

### 山中 圭吾

美山木匠塾では様々な経験をすることができました。木匠塾では美山で制作物をただ作るだけではなく考えた地域の人に話を聞いたり、また材料の積算やコンペなどに応募したりと、ここでしか得られない体験をすることができました。私は今年度の活動では学年が上がり、学業にも忙しさが増し昨年と比べなかなか参加することができませんでした。しかし、今年度の取り組みを見ていると前年度よりも、さらに活動の幅を広げ、さらに美山の方々との絆が深まっていると感じることができました。2回生が中心となって製作したadd-benchが実際に商品化に向け進行中だったり、美山の太田地区のリーフレットが完成したりと前年度よりもさらに学生に求められるもののレベルが着々と上がってきており、美山木匠塾に対しての期待感が高まり、社会的に広がっていることがとてもうれしいです。残り1年の参加ですが、これからの木匠塾がさらに発展していくことが楽しみです。

### 中野 雄介

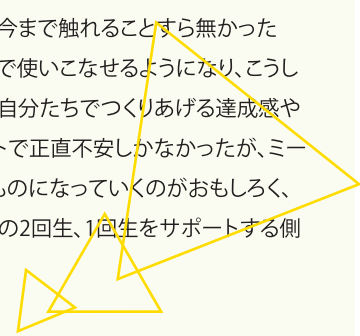
今年度の活動も昨年に引き続き、実際に物を作る経験や、その前段階でたくさんのミーティング、討論を行い作品を考えました。また3年生となった今年度からは授業やその他の活動が忙しくなり、実際に作業したり、作ったりする側から、サポートやアドバイスをする側にまわりました。自分たちの時には3年生の先輩がいなかったこともあり、人に教えたり助言する難しさを改めて感じました。それと同時に今年の制作は現地で合宿しながら行い今までよりも大野の現地の方のことを考えながら制作ができました。その他にも大野のリーフレットの作成、今まで出さなかったコンペ、無印のイベントへの参加などこれまで以上にアクティブに活動していたように思います。自分は今年度あまり活動に参加することができず、これからもそうかもしれませんが、それでも美山木匠塾がさらにアクティブに、大きくなるようにサポートしていきたいなと思います。

### 廣門 晴人 学生幹事

二年目の美山木匠塾は摂南大学学年幹事として活動させていただきました。昨年度末にホームステイを通じて大野の方々とのつながりを密にし、今年一年の活動はより美山木匠塾を活発に動かしていこうという年間と言えるものでした。制作活動については、初めて現地での制作合宿を大野の方々のご協力のもと行うことができ、素晴らしい環境で制作物を完成させることが出来ました。東京池袋で開催されたOPEN MUJIへは今年は摂南大学から制作物を展示させていただけるという大変貴重な経験をする事が出来ました。コンペ入賞はできませんでしたが商品化へとつなげることが出来ました。活動を通して木を通しての社会貢献や地域活性化の現状が目に見えるようになってきました。学生としてできること、すべきことは何なのか。これからも考察と実践を通して考えを深めて行こうと思います。美山木匠塾の活動を支援していただいたすべての方に感謝いたします。

### 長谷川 駿 製作幹事

去年とは違って変わり、今年は自分たち2回生が主体となって動くものだった。今まで触れることすら無かったCADやIllustrator、Photoshopを学び始め、シート1枚を作ることが出来るにまで使いこなせるようになり、こうした技術面が今年は大きく成長できたと思う。また、自分たちが提案したものを自分たちでつくりあげる達成感や満足感、喜びを皆で共有できたことが何よりも嬉しかった。ゼロからのスタートで正直不安しかなかったが、ミーティングの際の話合いやソフトを使って図面を書いていくにつれて現実のものになっていくのがおもしろく、また話合いの重要性を美山木匠塾の活動で身にしみて感じた。来年度は次の2回生、1回生をサポートする側としてアドバイスしたり、また別の活動に関与していこうと思う。



## 林 大智

二回生になり後輩が入ってきて自分たちがしっかりと活動していかなければというプレッシャーがあり、また学校の授業との両立もしんどいと思うことがあったが終わってみれば楽しいと思えることばかりだった。こう思えるのも先生や先輩のサポートがあったからだと思う。本当にありがとうございました。この一年で一番印象に残っているのは制作合宿でとてもよい経験になった。自分たちで話し合い考えたものを原寸大で作ることのつらさや楽しさは学校の授業ではなかなか味わうことのできないことだからだ。他にも様々なイベントに制作物が使われ、多くの人に触れてもらうことができ、また商品化の話まで出てきて本当に嬉しかった。この一年間たくさんの人に関わることができ、たくさんの人に支えられているということが実感できた。これからもこの繋がりを大事にしていきたいと思う。

## 上尾 奈菜

この1年間でたくさん美山・大野に行く機会がありました。冬には初めてのホームステイがあり、緊張していた私をホームステイ先のおばあちゃんをはじめ大野の皆さんが温かく迎え入れていただきました。春はリーフレットに向けて動き出し、ミニモクがありました。一度目の現地調査で気付かなかったことをこのミニモクで知れました。そして、どんどん道も覚えていきました。夏は製作物の現地プレゼンと製作合宿がありました。現地プレゼンの帰りに初めてホテルを見てとても感動しました。あの時の情景を今でも鮮明に覚えています。製作合宿では、ハードスケジュールを共に過ごし木匠メンバーとの仲がより深まったように思います。秋の体育大会・感謝祭は個人的に一番楽しみにしていた行事で、大野の皆さんと体を動かして食事をして、期待以上に楽しかったです。大野の四季折々の景色を見ることができ、とても充実した1年となりました。

## 野田 千晶

昨年度、1回生の時は、先輩達に教えていただきながらで指示していただいたことをこなしていただけでしたが、今年度の活動では、制作物やリーフレットなど、様々なことにチャレンジできました。特に、制作物は2回生がメインで不安要素しかなかったけど、1からみんなで作り上げて完成させていく楽しさを学ぶことを出来ました。他にもホームステイでは普段の生活では経験のできないことができたり、新たな出会いがあったりなどとても有意義な時間でした。昨年度と比べ、美山に訪れる回数も多くなり、地域の方々より密接に関わることができ、リーフレットやIKEBUKURO LIVING LOOPなどに参加することにより、少しでも大野の地域を他地域へと広めることに貢献することが出来たかなと感じています。普段の学生生活や授業では経験することの出来ないことをたくさん経験することが出来、とても有意義な1年でした。

## 岩沖 巧巳

僕が美山木匠塾に入ったきっかけは、大学内で建築関係のサークルや部活に参加したいと考えてるときに、美山木匠塾の先輩が紹介活動をされていて、そこから知り、参加したいと思ったからです。特に興味を持ったのは美山町という自然豊かな環境で活動を行え、その美山の木材を使い、学生達で考えた制作物を作り上げる事です。実際に参加してみると、これまで繋がる機会があまり無かった先輩方と美山木匠塾を通して活動する中で、学校での情報・建築に関する知識や考え方など様々なことを教えて貰うことが出来ました。また、活動の中で美山町に制作合宿で宿泊して制作物を作り上げていくということとても貴重な経験が出来たと感じています。僕はまだ1回生で先輩のサポートとして活動する事が多かったけれど、次は2回生になり、自分達で主体的に活動を行なっていかないので今より一層努力し、またその中で成長していきたいと思います。

## 森貞 剛志

僕は1回生なので今年度からの参加だったので、中心となって活動している2回生のサポートなどがほとんどでした。しかし、大野区の感謝祭の際、製作物で子供たちが楽しそうに遊んでいる姿や、大人たちが一休みしている姿を見て、自分が少しでも関わって作り上げたものが、使ってもらえるといううれしさを感じました。大野の人たちと話していると、先輩方が作った、過去の製作物も喜んで活用していただいているそうです。次は僕たちが2回生になり、中心となって活動していくので、さらにいいものを作れたらいいなと思います。また、今年度のOPEN MUJIでの展示のような機会を来年度もいただけた際には、美山木匠塾の活動を全力でアピールし、商品化にもつなげられたらいいなと思います。これから自分たちが主体となるのは少し不安ですが、先輩方にもサポートしていただきながら頑張りたいと思います。

## 森下 未貴

入学してから、見学に参加させてもらった時は、あまり活動内容を把握できませんでした。週1回だけの活動で建築の先輩と知り合えるなどの軽い気持ちで入りました。木匠塾の活動では、通常の授業では得られない経験ができたと思います。例えば、デザインを考えて、図面におこし、木材の発注から作成までをしました。美山の地域の子どもたちも親御さんも喜んでいただいていたうれしかったです。他にも、地域の方々の意見を聞く機会があり、ここでは木匠塾としての活動を楽しみにしてもらっていることや、過疎化となってる地域の方の声を聞くことができました。私たち学生に期待してもらっていることを知り、頑張ろうと思いました。美山木匠塾に入って、思ってた以上に厳しい活動であることや、顧問が建築士として働いているので、社会に半分出てるような体験をさせてもらいました。これからの学生生活も頑張りたいです。

## 箕山 幸恵

私はこの1年間で、計画・実行・評価・改善のサイクルの大切さをこの活動を通して感じる事ができました。また、美山木匠塾では普段出来ない事を体験できるのでとてもやりがいがありました。特に製作合宿で実際に作っていく時は、今まで沢山ミーティングをしてきた事の大切さや、正確さの重要性を感じました。また、実際に作っていく事で図面を作る段階で意識しないといけな所などをしっかり確かめられるので、現場に行つて自分の目で見ることがどれだけ大切かがわかりました。さらに、完成後色々な人に評価していただき、さらに改善してadd-benchの使い方をキャットタワーや地域の繋がりを作るものに多様化する事はとても大変で難しかったです。最後まで終わることが出来て良かったです。来年は、1回の時に学んだ事を生かしてしっかり計画立てて頑張りたいです。

## 福富 拓也

私は2月頃に美山木匠塾に入り、美山町大野地区には3月の合宿で初めて訪れた。制作物やリーフレットの作成にも参加しておらず、大野地区について分からないことが多く不安だった。しかし、大野の方々は温かい人たちが多く、たくさん大野の魅力を教えていただいた。そして、普段体験できない貴重な経験をした。ホームステイでは現地の人たちと親交を深めることができ、大野地区を活性化するために貴重な活動になったと感じている。また、絵本作成や制作物に参考になるような意見をたくさんいただいた。ホームステイは私にとっても美山木匠塾にとっても非常に良い経験になったと感じている。2回生からは、主体となって活動して行くことになる。指示を待つだけの一回生ではなく今度は主体的に行動を起こす立場になる。今後は、切磋琢磨してお互いの技術を磨き上げ、試行錯誤を繰り返して今後の制作物に取り組みたいと思う。

# この1年を振り返って



## 川島 史也 Fumiya Kawashima 生命環境学部 環境デザイン学科 1 回生

今年度は、制作合宿や運動会、もみじ祭りなどの実際に美山に行って、地域の方と交流を深める活動に参加することが出来ず、非常に残念だった。学内でのミーティングで計画し、準備することも大切だが、現地での活動報告を見ると、自分達で計画したことを実行することによって地域に貢献する達成感を感じてみたいと強く感じた。地域の現状を知り、これから何をすれば良いのか、どうすればもっと地域の魅力を発信していけるかを考え、実際に行動に移すという流れが最後まで出来なかったため、来年度は最後までやり抜けるようにしたい。今度は自分達が主体となるので、この1年で先輩から学んだことを活かし、さらには後輩に伝えたいことで地域を盛り上げ、地域の方々より深い関係を築いていきたい。また、美山木匠塾の活動の魅力を他の学生に発信していくことで自分たちの活動に興味を持ってくれるような機会をつくっていきたいと思う。

## 肝付 成美 Narumi Kimotsuki 生命環境学部 環境デザイン学科 1 回生

この一年を通して、一回生ながら様々なことを体験できた一年だったと思います。制作合宿や運動会などを通じて大野の方とも交流できましたし、リーフレットの英訳という形でリーフレット製作の一角も少し担えたとも思います。力になれたか分かりませんが、「あつまるま」の製作の初期段階から携わり、製作も実際に行い、木を活かすコンペを受賞するところまでの一連の流れを体験できたのも来年以降につながる良い経験でした。  
来年は二回生となり、木匠塾で中心となって活動することになります。木を活かすコンペ四年連続受賞が懸かるなどプレッシャーは大きいですが、頑張っていこうと思います。また、今年は僕自身かなり忙しく活動したし、来年はテニスサークルの方も忙しくなるので、来年は一回生が増えたいし、もっと他の同学年のメンバーに動いて欲しいです。そういう意味では人を動かす難しさを感じた一年でもありました。

## 藤井 裕美 Yumi Fujii 生命環境学部 環境デザイン学科 1 回生

私が木匠塾に入った理由は、木材などの自然素材を使って創作活動することに興味があり、また同じ学科の先輩方との意見交流を通して自分の建築知識をさらに豊かなものにしていきたいと考えたからです。私は他にも部活動に所属していたため、木匠塾のホームステイや美山での課外活動に参加することはできませんでしたが、週に一度のミーティングの際に美山をもっと多くの人に知ってもらうためのリーフレット作りについてや、今年度の製作物について様々な意見を出し合ったことがとても印象に残っています。環境デザイン学科は製図室が学年ごとにことなるため上下のつながりが希薄なので木匠塾の活動を通していろんな学年の先輩と交流できたことはいい経験になったと感じています。

## 白石 晃 Hikaru Shiraishi 生命環境学部 環境デザイン学科 2 回生

美山木匠塾の活動は、年度が更新されるたびにより広く、深くその意義を拡大させてきた。制作物による大野区とのコミュニケーションはもちろん、ホームステイやリーフレットづくりを通して社会へとより深くコミットする経験を得られた。建築という分野は社会や経済、環境を包摂し機能させているように、私達の活動も建築的試みによって大野区を動かしつつある。美山木匠塾の活動は現在の日本が抱える社会的な問題を建築をつくることによって解決しようとする今までのやり方に異議を唱えているように思う。地域社会に対してよそ者が問題の表面をなぞった程度のアプローチではなく、地域に積極的に入り込み、社会的な問題を複合的な問題として様々なアプローチから取り掛かることでより深い解決が可能なのではないか、と思う。今年度も前年に成し遂げた功績を上回るような活動を続けていく必要があると思う。

## 手島 悠登 Yūto Teshima 生命環境学部 環境デザイン学科 2 回生 —製作幹事—

私が美山木匠塾に参加して、来年で二年が経つ。昨年度の私は活動でやりがいを感じることはできたが、あくまで受け身な部分が多かった。そんな中で、取り組みに積極的に関わることが多くなっていった初めの要因は、ホームステイであると思う。ホームステイは、自分の中の美山木匠塾への活動の意識向上に繋がった。自分たちの代が、メインとなって活動するという意識から大野の方々や、大野の実情をより一層知ることで、この地域によりよい製作物を届けて喜んでほしいという思いが強くなった。その中で製作活動を試行錯誤しながら、幹事を中心に同回生と協力し、上下回生や先生の助けを得ながら取り組めたことは、私自身の成長に繋がったと思う。またリーフレットの制作やLINKtoposへの参加、もみじ祭りなど様々な活動を取り組むことで、多くのことを学ぶことができた。まだまだ自分自身、力不足だと感じる部分も多くあるが、これまでの経験を活かして来年度は今年度の自分を越えたと感じられる、そんな年にしていきたい。

## 長岡 真希 Maki Nagaoka 生命環境学部 環境デザイン学科 2 回生

木匠塾の一員として、学生同士で意見を交換しあひながら作品を作り上げる経験ができたことは非常に貴重であった。授業内の課題演習では、個人で取り組むことが多い。そのため作品作りにおける技術面や発案力の向上だけでなく、他の人の意見をいかに尊重するかを考える機会になったことが良かった。今年度の木匠塾の活動は、昨年よりも地域の方とのコミュニケーションを大切にし、その中で気付いたことを作品に反映できたことが良かった。今後も使い手との交流の中で生まれたアイデアや気づきを大切に、木匠塾での作品作りを努めたいと思う。また、パンフレットを制作したことや多くの発表を行ったことで、地域の方からだけではなく他大学の学生、木材分野に関わる方々等から注目をいただいているように思う。木匠塾のコミュニティー範囲を今後も広げていくとともに、意見交換を中であつたことを作品に反映したいと考えている。

## 宮奥 森伍 Shingo Miyaoku 生命環境学部 環境デザイン学科 2 回生 —学生幹事—

木匠塾にとって今年は、自分たちが制作物を担当した昨年よりも大きく広がった1年だったように思う。リーフレットの作成やLINKtoposへの参加、制作物の商品化の動きなど、今までにはなかった取り組みにも多く参加し、木匠塾がどんなことをしているのか、どのような考え方で活動しているのかをより多くの人に知ってもらえているように感じる。外部へと発信するという行為をするためには、自分たちの活動を改めて振り返って把握することが必須である。そういった意味で、木匠塾の活動について私たちがもっとよく考え直すことができ、外に大きく広がると同時に木匠塾の中が深く充実することのできた1年でもあったのかと思う。これからも木匠塾での活動を楽しむ中で、木匠塾という団体が今以上に外側にも内側にも大きくなってほしいと思う。

## 松原 齋樹 先生 Naoki Matsubara 生命環境学部 教授

大野区の住民のみなさんとの信頼関係が一段と深まった一年でした。特徴的なことは、ルーチンである木工製作に加えて、大野区を紹介するリーフレット作成に取り組んだことです。リーフレット作成に向けてのホームステイや、日帰りの現地取材によって、木工製作だけでは到達できないところまで、大野区の理解が深まりました。本来の木匠塾活動である木工では、「あつまるま」が、木を活かす学生コンペで3年連続の受賞を果たしたことは、大きなできごとでした。  
公立大学のLINK Topos、府大のSDミーティング、「地球環境の殿堂」の学生ポスターセッション等の発表の依頼が多かったことも特徴的でした。僕自身が木匠塾に関わるきっかけは、温暖化防止京都会議（1997）の学生集会を企画したことなのですが、今年度は木匠塾メンバーが環境問題や他分野との関連を理解し始めた画期的な年になったと思います。僕自身は、仕事の都合で後半はやや失速しましたが、顧問としての活動に前向きに取り組めた一年でもあります。

## 井上 あい Ai Inoue

生命環境学部 環境デザイン学科 3 年生

主体となって製作物に取り組んだ昨年度とは異なり、リーフレットという新たな活動を通して地域との関わりを深め、美山木匠塾の活動や自分たちが経験したことを外部へ発信した1年だったと感じる。リーフレットを作る際、もっと深く大野を知るために行ったホームステイでは、農作業のお手伝いや食事を共にさせていただくことで、より身近に地域を感じることができた。また、魅力を伝える方法や土地の歴史、読み方の整合性など、大野の方とも学生間でも話し合いを重ね、外部の人へ伝える難しさを知る貴重な経験となった。ホームステイでお世話になった方には本当の孫のように接していただき、「いつでも帰っておいで」と言ってもらえることがとても嬉しかった。他にも学内での発表や他大学とのポスターセッションなど様々な人たちと関わる機会があり、大野の方の協力と支えてくださる多くの方に感謝している。今後も人との繋がりを大切に活動していきたい。

## 田村 匠 Takumi Tamura

生命環境学部 環境デザイン学科 3 年生

今年度の美山木匠塾の活動は大きな広がりを見せたと思う。製作では、初めて現地での合宿を行い、製作の様子を現地の方々に見ていただくことができた。またリーフレットの作成では、ホームステイに始まり、ミニモクや何度も行った現地調査など、大野のことをさらに深く知ると同時に、現地の方々と関わる機会が多くあり、作成の過程で得られたことはかなり多かったと感じる。さらには作成したリーフレットを手にして、様々なイベントに参加し、私たちの活動や大野のことを発信していくことができた。全国の公立大学の学生が集まるLINKtoposでは、互いの地域貢献活動について発表し合い、情報を発信するとともに学ぶことも多くあった。ここで知り合った学生と協力して大野ダムのみみじ祭りに参加することができ、他団体とも交流という新たな活動へと発展させることができた。今年度の頑張りを来年度にもつなげていき、大野の方々への感謝の気持ちを忘れずに、美山木匠塾の活動を充実したものにしていきたいと思います。

## 仲田 早穂 Saho Nakata

生命環境学部 環境デザイン学科 3 年生

今年度はリーフレットという新たな活動により様々な人との関わりが増えた1年であったと思う。作成にあたり大野の皆さんにはホームステイや調査などで交流する機会をいただき大野の溢れる魅力に触れた。木匠塾に参加して三年目にしてようやく大野について知り、発見することも多かったように思う。リーフレット作成中は情報に誤りはないか、一連の流れに整合性はあるかなど普段の制作活動とは異なる難しさを学ぶことが出来た。完成したリーフレットは学内だけでなく学外のイベントでも配布する機会をいただき、私たちの活動拠点である大野の存在感が強くなっているように感じる。今後も木匠塾と大野がより一体となって相互に関わりあえるような活動が続くことを願っている。またリーフレットだけでなくメインの活動である制作においても商品化の声がかかるなど年を重ねる毎に広がる活動の今後が楽しみである。またそれと共に導き、支えて下さる多くの方に感謝したいと思う。

## 中村 優実 Yumi Nakamura

生命環境学部 環境デザイン学科 3 年生

木匠塾にとって今年度は、自分たちが制作物を担当した昨年よりも大きく広がった1年だったように思う。リーフレットの作成やLINKtoposへの参加、制作物の商品化の動きなど、今までにはなかった取り組みにも多く参加し、木匠塾がどんなことをしているのか、どのような考え方で活動しているのかをより多くの人に知ってもらえるように感じる。外部へと発信するという行為をするためには、自分たちの活動を改めて振り返って把握するということが必須である。そういった意味で、木匠塾の活動について私たちがもっとよく考え直すことができ、外に大きく広がると同時に木匠塾の中が深く充実することのできた1年でもあったのかと思う。これからも木匠塾での活動を楽しむ中で、木匠塾という団体が今以上に外側にも内側にも大きくなってほしいと思う。

## 林 咲予子 Sayoko Hayashi

生命環境学部 環境デザイン学科 3 年生

今年度はこれまでよりも地域との距離が近くなったように感じました。例年では、製作物に取り組むことがメインでしたが、リーフレットの作成やホームステイの実施など、活動が大きく広がった1年であったように思います。特にリーフレットの作成は木匠塾にとっても初めてのことで、気付かされることがたくさんありました。普段何気なく読んでいるリーフレットでも、さまざまな工夫がされていると感じました。今年度はほとんど参加することができませんでしたが、その1年の間に大きく変化、成長した木匠塾の今後に期待すると共に、来年度は機会があればまた参加したいと思っています。また年々交流の機会を増やしていただいている、大野地区の方にとって、よりよい活動をしていくことができたいと思います。

## 松本 哲弥 Tetsuya Matsumoto

生命環境学部 環境デザイン学科 3 年生

今年度は、主にリーフレットの制作に関らせていただきました。学生のあいだで、どのようにしたら観光地化されていない大野区の魅力を、外部の人に伝えられるかという部分でたくさん悩む場面がありました。そのなかで、大野区の方、地域町おこし協力隊の方などの意見やアドバイスを交えながら、美山木匠塾だからこそできる魅力の詰まったリーフレットを完成させることができたと思います。特に、学生が大野区という町を取り上げ、町の魅力を発信しているという目新しさに焦点を当て、紙面に工夫を加えた点がよかったです。今後は、外国語版や散歩コースに掲げるのぼりなどへの展開、またリーフレットのバージョンアップも視野に入れつつ、更にこの取り組みを発展させていきたいと考えています。今年度も大野区の方をはじめとする協力があって、無事に活動ができたことに感謝し、また来年度に向けてがんばっていきましょう。お疲れ様でした！

## 淡路谷 直季 Naoki Awajitani

生命環境学部 環境デザイン学科 4 年生

今年度は去年にも増して活動の幅が広がったと思います。「あつまるま」[add-bench]の製作に加え、ホームステイ、リーフレット作成、もみじ祭りなどのイベントに参加するなど、内容の濃い1年間だったと感じます。活動の広がりが美山木匠塾の独自性を高めると同時に、大野のみならずさまざまな応援してくれる方々との繋がりがより強くなったと感じます。また、Open MUJIやLink topos、地球環境の殿堂などへ参加し、大野以外の場所での活動も多くありました。色々なところに呼んでいただき、多くの方に活動を認めてもらえたことがとても嬉しかったことで、今年の印象的なことでした。

美山木匠塾はこの4年間で大きく成長しました。これは活動を支えてくれるすべての人のおかげだと思えます。これから後輩たちが中心になって楽しく、素敵な活動に育てていくことを期待しています。最後になりましたが、活動を支えてくれる皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

## 鍵井 太貴 Daiki Kagii

生命環境学部 環境デザイン学科 4 年生

今年度は、美山木匠塾の活動をより多くの方へ発信した年だったのではないかなと思う。現地での製作、リーフレットの作成など今までにない新たな活動が多くみられた。新たな活動は、今までに関わったことのない人との交流が生まれると同時に、初めての試みという不安もあるのではと思う。中でも、リーフレットは、作成にあたり、様々な苦労があったと思うが、実際に大野へホームステイをすること等によって、これまで以上に大野の皆さんとの交流が深まり、完成度の高いパンフレットに至ったのでは無いかと思う。また、製作物に関しても、商品化され、国内外で販売されるなど、ここ数年で想像もしていなかったほど、美山木匠塾の活動範囲は広がっている。来年度以降も、現地での活動を基にして新たな活動と更なる発展があることを願っています。

## 谷口 悠貴 Yūki Taniguchi

生命環境学部 環境デザイン学科 4 年生

今年度は美山木匠塾の幅を拡げた年だったと思う。今年度はリーフレット作成を主な目的としたホームステイを基盤として始めた。よって、学生自身が大野の皆さんと関わっていく中で、大野をより体感し、考えた1年となったと思う。そして、木工製作物についても例年大学で行っていた製作を、今年度においては現地で行うことができた。加えて、それらでの合宿は摂南大学と京都府立大学との交流も深めることとなり、和気満々と活動できた。また、美山木匠塾として木を扱うことが、木材を扱う地域だけではなく、地球温暖化防止等と関連して地球規模で影響しているということを認識できる機会となった。製作物の大きさはそれ程大きいわけではないが、それに関わっているものの広さが価値として確かに表れてきていることは美山木匠塾の財産になったと思う。今年度は今までに比べ、やはり美山に行く機会がとて多くあった。来年度も其々行ける日があれば、積極的に現地へ出向いてほしいと思う。

## 平松 優生 Yuki Hiramatsu

生命環境学部 環境デザイン学科 4 年生

今年度の木匠塾は、昨年度より更にパワーアップした活動を行っていたと感じます。私自身は今年度、木匠塾の活動には参加できなかったのですが、後輩たちの活発な活動には良い意味で驚かされました。何度もブラッシュアップし作成したリーフレットがマスコに紹介されたり、作品が商品として日本さらには海外に進出したりと、国内だけでなく国外に渡って大変幅広く活動されてきました。

木匠塾のこれからを担っていく皆さん、今後の木匠塾のポテンシャルを活かし、さらに発展・成功されることを心より応援しています。木材や機材を扱う事も多々あるかと思うので、十分気をつけて、大学生でしかできない体験を是非色々チャレンジしてみてください。木匠塾の益々の飛躍を楽しみにしています。

# 2017年度の取り組み

## 制作活動 「わんぱく公園」

本年度は、南丹市美山町大野区において、制作合宿を行った。

京都府立大学：あつまるま  
(ヤタイ・移動茶室)

摂南大学：add-bench

※東京・池袋でのOpen MUJI  
in IKEBUKURO LIVING LOOP  
(11/19) に参加。

## 大野区リーフレット制作

大野区の魅力を詰め込んだ「めぐって、感じる おおのさんぽ。」を作成した。日本語版の他、英語版、韓国語版、中国語版も作成し、地域外での活動時に配布している。

## 川下企業見学会 / 建築見学会

株式会社 内田洋行 東京本社  
株式会社 パワープレイス  
吉野中央木材 株式会社  
吉野杉の家：設計・長谷川 豪

## 商品化PJ

富永ジョイナーより商品化  
・KASANOKI (傘立て)  
・add-bench (ベンチ)

## 現地ホームステイ / 合宿

美山町大野区にてホームステイを実施し、地域と学生の絆を深めた。

## 受賞

(京都府立大チーム：あつまるま)  
木を活かす学生課題コンペティション  
2017年度 木を活かす学生活動大賞  
(京都府立大美山木匠塾)

平成29年度 京都府公立大学法人 理事長表彰

平成29年度 京都府立大学 学長表彰

## 2017年度活動報告として

本年度は、活動地である大野区へ行くたびに、地域の方から声がけいただくなど、地域との絆の深まりを実感する一年でした。ホームステイにより学生と地域の絆が深まり、学生も地域への愛着を持って制作に取り組むことができたのではないのでしょうか。特に大野区リーフレットは、地域外の方へ大野区の魅力をアピールするには絶好の資料となったように思います。また、余り材から生まれた傘立て、KASANOKIや、制作物であったadd-benchが商品化される機会に恵まれた年にもなりました。活動に関わって頂いている皆様のご厚意に感謝し、新年度は、よりよい活動ができる体制の基盤づくりを進めていきたい。

(美山木匠塾 塾長 羽原 康成)

みやまもくしょうじゅく

# 美山木匠塾

## 2017年度活動報告書

2017年3月31日発行

発行元

美山木匠塾 事務局

発行・編集

羽原 康成

〒596-0005

大阪府岸和田市春木旭町36-34

TEL 090-9887-0852



美山木匠塾・参加大学

京都府立大学

学生幹事 宮奥 森伍(2年生)

参加学生数

4年生4名、3年生6名

2年生4名、1年生3名

摂南大学

代表幹事 須山 慎也(3年生)

学生幹事 廣門 晴人(2年生)

3年生5名、2年生5名

1年生5名

※参加学生合計32名

塾長、事務局長

羽原 康成

顧問

京都府立大学 教授

松原 斎樹

特別顧問

ものづくり大学 准教授

戸田 都生男

協賛

南丹市美山町 美山地域推進課

南丹市地域おこし協力隊

南丹市美山町大野区